

はなむけのことば

皆さんは五年間本校において研鑽を積まれ、今日ここに卒業の時を迎えられました。その努力に、本校教職員を代表し心よりお祝いを申し上げます。

また、今日まで皆さんを支えてくれた多くの人々に、皆さんとともに感謝を申し上げます。お祝いを申し上げますとともに、心からお礼を申し上げます。

本校は昭和三十八年に創立され、今年創立から五十周年を迎えます。これまでに一人万人を超す卒業生が本校を巣立ち、「ものづくり」の現場で活躍されています。最近では、海外で働くために必要を証明書類の発行を求めてこられる卒業生が増えており、皆さんの先輩達も徐々に日本から海外へと、活躍の舞台を移されているようです。「ものづくりの地産地消」が言われ、企業が生産拠点を海外に展開する動きが加速している現状では、これからますます高専卒業生の活躍の場が、世界に広がっていくのではないでしようか。

一九九〇年代半ばから海外への進出を加速し、空調機器の売上では世界ナンバーワンの会社の会長をしておられる井上礼之（のりゆき）さんが、アルファベットの『I』と『T』、そしてギリシャ文字の『π』の三つの文字で、企業が求める人材について語っておられます。

技術者は、まず最初はアルファベットの『I』のように、一つの専門領域を掘り下げていく『I字型』に始まりますが、その後経験を積んでいけば、アルファベットの『T』のように、掘り下げた専門領域の上に幅広い知識・経験を積んで『T字型』に成長することができます。しかし、科学技術の高度化が進む現代社会において、企業が真に求める人材は、『T』にもう一つ足がいたギリシャ文字『π』のように、『T字型』にもう一つ異なる専門分野を別に持つ『π字型』の人材と井上会長は言われています。

科学技術の分野では、最近特に学際、学融合ということが強調されています。複数の専門領域に通じて複眼的な思考ができる技術者がこれから強く求められるようになるのは間違いがありません。

皆さんは本校で五年間、まず『I字型』を目指して一つの専門領域を深め、技術者としての基礎教育を受けてこられました。本校を卒業されこれから企業へ大学へと進まれれば、専門領域を更に深めることに加えて、幅広い知識を修得し経験を重ね『T字型』を、さらには『π字型』を目指していただきたいと思えます。

高専で五年間学び、卒業したからと言っても、このまま技術者として独り立ちできるわけではありません。学ぶことは一生のことです。いかなる状況にあっても学ぶことに終わりはなく、知ることには終わりはありませんし、知識に不動なるものはありません。科学技術の高度化・複雑化に遅れをとることなく、常に深く、常に広くと学び続けることに貪欲であって欲しいと願っています。

一昨年三月の東日本大震災は二万を超す貴い命を奪い、東北・関東地方に大きな被害をもたらしました。発生からもう二年経ちましたが、未だに三十一万人を超える被災者の方々が、仮設住宅などでの避難生活を余儀なくされています。この災害は単に日本という国の、一地方の災害ではありません。皆さんはこれからも自分は一休何ができるのか、自らに問い続けて下さい。神戸は震災から十八年、日本のいや世界の人人に支えられここまで復興してきました。東北が復興しなければ日本の復興はありません。復興には長い時間が必要ですが、この震災を乗り越え、「安全で誰もが安心して暮らせる社会」を創り上げていくのは、次の世代を担う皆さんの使命です。

卒業生の皆さんのこれからの活躍に期待し、また必ずや皆さんに幸せが訪れることを心から祈り、私からの「はなむけのことば」とします。

平成二十五年三月十九日

神戸市立工業高等専門学校

校長 伊藤 文平